

総合型地域スポーツクラブ

アジアクラブ通信

2013 4
卯月うづき



NPO法人  スポーツ振興くじ助成事業
アジアクラブ

2013年4月より 4ヵ月制 スタート!

受講生の皆様からのご要望も多くあり、今月から 4ヵ月制 がスタートしました。今期開講した「パーフェクトボディメイク」他、オリジナルプログラムでは、これまでの3ヵ月制より1ヵ月増えるだけで、各プログラムの効果アップが期待されます。

これからもスタッフ一同、会員の皆様が健康維持・増進、生きがいづくり等様々な目的にご活用いただけますよう、より良い環境づくりに努めてまいります。今後ともアジアクラブをよろしくお願い申し上げます。

報告

Sports Tourism

スポーツツーリズムin小浜島

3月2日から小中学生と小浜島にてスポーツ交流会を行いました。リゾナーレ小浜島のご厚意でゴルフ場をお借りすることができました。子どもたちは初めてのゴルフ場に大はしゃぎ。まずはゴルフ場でのルールやマナーを習い、いざコースへ!

初心者でもできるスナッグゴルフを使いゴルフの感覚を体験しました。午後は小浜小中学校をお借りしての陸上練習。アジア記録を持つ譜久里武さんによる指導を受け、みんな最初に測定したタイムより確実に速くなっていました。徒競走や高跳び、幅跳びなども取り入れの記録会。終日、小雨の降る寒空の下ではありましたが、みんな元気に練習していました。



コミュニティプログラム訪問 少年少女ミニサッカー教室

4月2日、曇空の中、ミニサッカー教室がスタートしました。講師を務める長堂肇先生にお話を伺いました。「誰でも、もちろん初めてやる子どもサッカーを楽しめるように心がけています。その中で特に次の3つを大事にしています。」

1. スキルアップでなく、サッカーゲームを楽しむ
2. その中でコミュニケーション・スキルを育む
3. 自分達のことは自分達でやる

これまでは1ヵ月の教室でしたが、継続して参加している子を見ると、最初はぶつくと泣いていた子どもだんだんちゅーぱーになってくる。自分達でチームを分け、ルールを確認し、分からないことは次の週までに調べてくるようになる。精神面で変わってくるように思います。また、運動の面では動きづくり、ボールフィーリングを常に考えていて、遊びながらいろいろな動きをさせています。」

元気いっぱいの子も達、長堂先生の元、懸命にボールを追っていました。

少年少女ミニサッカー教室
毎週火曜日
16:00 ~ 17:30
新川コミュニティーセンター



観光講座「今帰仁を歩く」



3月16日、今帰仁村中央公民館講堂にて「今帰仁を歩く-着地型観光の可能性と課題-」と題した観光講座を開催しました。

フットパス (foot path) とは、英国を発祥とするてくてく道のこと。Foot=足、Path=小径、私たちが知らず知らずに足を向けてしまう散歩道、昔ながらの風景だったり、どこか安らぎを与えてくれたり、歩くことが歩くことだけで終わらない、そんな散歩道を誰もがそれぞれの住む地域に、一つぐらいは持っていることでしょう。

2000年、日本で11件目の世界遺産 (文化遺産) 「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として、琉球王国時代の城跡が登録されました。今帰仁グスク跡は沖縄本島北部に位置する世界遺産の一つです。

世界遺産に登録された事で、今帰仁城跡を訪れる観光客は増えましたが、レンタカーで移動する方々が大半で、地域のすみずみにひっそりと佇む感動や風景は見過ごされがちです。地元今帰仁村の人々が暮らす中で、歩み続けられてきた散歩道。観光を訪れる人々にも是非その楽しみを味わってもらいたいと、今帰仁グスクを学ぶ会と今帰仁村観光協会では、フットパスへの取り組みに動き始めました。今回、北海道より酪農学園大学教授小川巖氏を招き、講演会、シンポジウムを開催しました。

講演 : 「食と農をつなぐフットパス」 講師 酪農学園大学教授 小川巖氏
シンポジウム : 「今帰仁を歩く」

パネリスト 又吉演氏 (今帰仁村観光協会)
仲嶺盛治氏 (今帰仁グスクを学ぶ会)
花井正光氏 (沖縄エコツーリズム協議会)
緒方修氏 (アジアクラブ)

主催 : NPO法人アジアクラブ
共催 : 今帰仁村観光協会・今帰仁グスクを学ぶ会



農村地帯を歩くことで...

- 農村空間の広がりを感じる
- 農業の実際に触れる
- 旬の農作物を味わえる
- 食材として買い求める
- 友人、知人に送(贈)る
- 周囲の人達に紹介する
- 農家の人と知り合える
- 作物の作り方、調理法を教わる

地域別にみた主なフットパスとその目的

地域	目的	食	農	景	文	学	史	学	考	研	究
美知野村(千望峠パシ)		○	○								
上富良野町(千望峠パシ)		○	○								
えりも町(東嶺山道)		○	○								
今市町(今市グスクパシ)		○	○								
南郷町(南郷運河パシ)		○	○								
海江町(江新工場の遺跡パシ)		○	○								
平良町(千島の橋と千島パシ)		○	○								
ムラサキ町(豊原と大学の散歩道)		○	○								
江差町(江差の道のパシ)		○	○								
喜望峯(喜望峯パシ)		○	○								
北郷町(北郷山頂-北郷の陣パシ)		○	○								
南郷町(南郷パシ)		○	○								
小樽町(小樽第一支路420-1パシ)		○	○								
南郷町(実業館パシ)		○	○								
美良町(美良町パシ)		○	○								
豊内町(豊内山道パシ)		○	○								



十勝岳連峰を望む畑沿いの千望峠パシ (上富良野町)



農家で採れたてのトムモロコシや野菜をいただく (南幌町)



休憩所の牛乳試飲、野菜の販売も (黒松内町)

【講演要旨】

北海道におけるフットパスは、ここ十年の間に始まった歴史の浅い取り組みではあるが、道内40市町村、約200コースを数えるまでに発展している。この背景にあるものは、他の取り組みと違い民間レベルで実行できる点にあると思う。またフットパス運動の目的が非常に多様に設定できる点も魅力ではないだろうか。健康維持向上を目的としたウォーキングと違って、フットパスは歴史的な事や地域に根差した事など、我々と地域を「つなぐ」径(みち)として機能している。現在、北海道では、フットパスの際に地元の産物を食べることや、個々のフットパスを繋ぎロングトレイル(パス)として、更なる魅力を産み出そうとしている。網走-釧路間総延長211キロなどが好例である。観光地がフットパスに取組むメリットとしては、自身の足で地域の魅力を感じてもらふ事により、滞在時間の延長やリピート化が挙げられる。韓国・済州島では、2007年より島をめぐるフットパスコース(オルレ)を開設し、現在好況を呈している。この成功を受けて、九州ではフットパス「九州オルレ」を開設した。オルレ(フットパス)に馴染んだ観光客を受け入れる事で、今帰仁村の観光も活性化するのではないかと。

各地の取り組みのいいところ取りをする事により、今帰仁村の活性化につながる努力を期待する。特に歴史遺産を辿りながら、沖縄の美しい海沿いを歩くフットパスコースは、今帰仁独特の魅力を備えているように思う。

うちな〜ぐち広場



奄美でうちな〜文化との交流をしてきました

うちな〜ぐち・御総様(ぐす〜よ〜)、我(わ)んね〜、比嘉光龍(ふいじゃ ばいろん)でいち言ちよ〜いび〜事(くとう)、見(み〜)知っちょ〜てい

呉(くい)みしえ〜びり。

(日本語・皆様、私は比嘉光龍と申しますので、お見知りおき下さいませ。)

さて、今回から楽しい「うちな〜ぐち(おきなわ語)」についての話題や、私のうちな〜ぐち関係の活動などについて面白いエッセイ風な文章をここに書いていこうと思っていますので、御笑読下されば幸いです。

また、私は毎月第一、第三土曜日の午前中の月に2回、ウェル・カルチャースクール・真地校(アジアクラブ主催)にてうちな〜ぐち講座を設けておりますので、うちな〜ぐちに興味のある方は体験講座でも受けに来て下さいね。1度だけならば体験講座は無料ですので、めんそ〜ちくいみそ〜り(いらっしゃって下さい)。

突然ですが、先月3月1日に奄美の名瀬市にて沖縄大学地域研究所主催で「移動市民大学in奄美」というものを行なってきました。ポスターをご覧ください。私を中心に、アメリカ人で現在琉球大学の講師をしているクリス・デイビス氏と、琉球大学研究生でオランダ出身の、うちな〜ぐちペラペラなハイス・ファン・デル・ルベ氏も参加し、二人でうちな〜漫談なるものを繰り広げてくれました。更にポスターにもあるように奄美の唄者である、皆吉恵理子さんとも共演させていただきました。太鼓はアフリカ太鼓のプロでもある旦那さんのヤマチャンが担当して下さいました。私の歌三線にもリズムを刻んで下さって、とても助かりました。



私の歌三線にヤマチャンが太鼓を叩いている様子

私と皆吉恵理子さんの旦那さんヤマチャンと恵理子さん



スーパーなどでおなじみのもずく。春先から収穫期に入り、値段もお手頃になっています。合わせ酢でいただく以外にも天ぷらやクッキー、佃煮などいろいろな食べ方があります。今月は、人気のもずくスープを紹介しま～す。

鶏ガラスープの素でスープをつくる（2人分で約400cc）。

酒、しょう油を各大さじ1ずつ加える。

洗った生もずくを加えてひと煮立ちさせる。

塩こしょうで味をととのえる。

きざんだネギをちらして完成！

生姜やとうがらしを加えても美味。

調味料はお好みで。



もずくにはカルシウムやマグネシウム、鉄、亜鉛、ビタミン、セレンウムなどのミネラル、アルギン酸、フコイダンなどの食物繊維が含まれています。ぬめり成分のフコイダンには、余分なコレステロールを排出したり、がん細胞に抵抗力を強める作用があります。セレンウムは解毒作用や強力な抗酸化作用が注目されているミネラルです。アンチエイジングが期待できそうですね！

ちなみに一日の摂取量はプリンカップ1個分弱ぐらい（40g）を目安に。

理事長's コラム



琉球諸島世界遺産フォーラム（仮）設立へ向けて

今、沖縄の自然も世界遺産の有力候補として挙がっている。対象範囲は、奄美以南の琉球諸島である。これまでに日本では知床、白神山、小笠原、屋久島が登録されている。琉球諸島が登録されれば一県で二つの世界遺産を抱えることになる。前述したように、「琉球王国のグスク及び関連遺産群」は七つの市と村に分散し、それぞれの市や村の方針で運営されている。

沖縄の世界遺産は九地域に分散している。北部に一カ所と中部に二カ所の三城（グスク）が、南部には、首里城跡および近くの建造物等を含ませて三カ所、および識名園（王家の別邸）と琉球王朝最高の聖地・斎場御嶽が指定されている。沖縄の「聖地巡り」には五〇〇年の歴史がある。なかでも南部の御嶽（うたき）を巡る東御廻り（アガリウマイ）は今日でも脈々と続いている。特徴は門中（ムンチュー）家族・親戚一同）で定期的な廻ることだ。

斎場（セーファー）御嶽は、世界遺産登録前は、入場料無料で年間約一万二〇〇〇人の入場者だった。今では入場料二〇〇円だが三〇倍近い約三十五万人が訪れる。対策として狭い石畳の道の両側に土嚢袋が敷き詰められている。複数名以上の来訪者が約一m幅の参道を並列に歩行する。

限られた幅の石畳をはみ出し、両側は踏み固められ帯状をなす。石垣が崩壊した場合の対策や、景観保全、案内人の育成、PR、教育など、各自自治体でバラバラに対応しているのでは、世界遺産の

の価値を引き下げてしまう。今から、広域連携をすすめて、まとまってやるのが大事だ。

こうしたことは、関係自治体が一緒に他地域（例えば、白神山）の苦労を学ぶべきであろう。すでに、文化遺産だけでも、資源が劣化しはじめているのだから、自然遺産が加わればさらに混乱が起き、資源の劣化、破壊が進みかねない。世界遺産を保護管理する共通の枠組みをつくっていく必要がある。例えば、国レベルでは、外務省、総務省、財務省においては登録時から共同参加してもらい、文化庁、環境省、林野庁、沖縄県庁、各市町村とともに、共同運営の仕組みの構築が必要であろう。縦割りの競争が顕在化し、入り乱れてああしる、こうしるを上げれば、收拾がつかなくなる。世界遺産の本来の意義が薄れ運営機能不全の「危機遺産」(?!) になってしまうかもしれない。今のうちから世界遺産センターをコアとしながらも、より良い運営体制づくりに向けての準備を始めておくべきだろう。先行事例を始めとして、様々な調査・研究も必須だ。そのために琉球諸島世界遺産フォーラム（仮）準備会を立ち上げ、まずは世界遺産の保護、そして管理、利活用、教育等への提言や広域連携を実現するための一部事務組合（あるいは、琉球列島世界遺産・運営機構）のような体制づくりが出来るように企画準備中である。

アジアクラブ理事長 緒方 修

「アジアクラブ通信」は毎月一日の発行です。事業活動の紹介を中心に、皆様の健康に役立つ情報をお届けしていきます。今後ともご愛読いただきませうよろしくお願ひ申し上げます。